

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 佐藤
日 時	平成31年4月26日(金曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 35 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田		
出席理事者	【上下水道部】阿久根部長 [総務経営課]西田課長、人見水道経営係長、服部下水道経営係長 [お客様サービス課]柴田課長 [水道課]清水課長 [下水道課]川勝課長		
出席事務局	山内事務局長、鈴木係長、佐藤主任		
傍聴者	市民2名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議 (小川委員長あいさつ)

[事務局主任より日程説明]

2 案件

(1) 行政報告

[上下水道部入室]

① 水道用水供給事業の実施について

[上下水道部長あいさつ]

[総務経営課長 資料に基づき説明]

10:04

[質疑]

<竹田委員>

経費はどのくらいかかるのか。

<総務経営課長>

電気料金、薬品代、施設の減価償却費ぐらいである。

<竹田委員>

人件費がふえることはないか。

<総務経営課長>

現在の職員体制で賄える。

<竹田委員>

収入面は年間どのくらい入るのか。

<総務経営課長>

水の費用をもとに単価を決める予定である。見込みとしては、年間4千万円から5千万円の収入の増加を見込んでいる。

<竹田委員>

管路を配置する場所はどこになるのか。

<総務経営課長>

国道の脇に入る予定である。

<竹田委員>

その辺りには、田んぼなどがあるので、事前に自治会などにしっかりと説明して、連携を図ってもらいたい。

<菱田委員>

南丹市は地方公営企業法の適用を受けているのか。

<総務経営課長>

受けている。

<菱田委員>

本市は水道用水供給事業を初めて行うのか。

<総務経営課長>

初めてである。

<菱田委員>

浄水場で事故が起こった時の支援は、南丹市で独自に対応してもらうことになるのか。協定はできているのか。

<総務経営課長>

協定は今後詰めていく。千代川浄水場近くにメーターの設置を予定している。亀岡市域内の管路に事故があっても、南丹市で設置したので、南丹市で工事・修繕する。八木町の給水区域内の対応も南丹市で対応する。

<菱田委員>

千代川浄水場内で不測の事態が起こったらどうするのか、マニュアル化をしていく必要がある。簡易水道地域も管理が必要である。南丹市に水を送らなければならないので、亀岡市民に水を供給できないとなると困る。その辺りのリスク管理はどのように考えているか。

<上下水道部長>

今後基本協定を詰めていく。市内で事故が起こった場合は2つの浄水場があるので、連絡管でカバーしていく。優先的に病院や社会福祉施設に供給していく。それでも対応できないときは、水道協会による応急給水の協定で応援要請をしていく。

<菱田委員>

京都中部総合医療センターやJR八木駅周辺の区画整理事業もあるので、リスク管理をしっかりし、協定の中にうたって、市民への影響を最小限度に抑えられるようお願いする。

10 : 20

② 水道事業、下水道事業の経営戦略について

[総務経営課長 資料に基づき説明]

10 : 37

[質疑]

<奥野副委員長>

平成36年度からの赤字は、南丹市への水道用水供給から得られる利益は含んでいないのか。

<総務経営課長>

まだ計画段階で正確な数字が出せないため、盛り込んでいない。

<奥野副委員長>

順調にいけば、財政の健全化につながるのではないかと。

<総務経営課長>

経費が少なく、収入が上回るので、今後のプラス材料として考えている。

<奥野副委員長>

地域下水道事業と公共下水道事業の統合による、設備の管理はどうなるのか。

<下水道課長>

処理場跡地の利用はポンプ施設に利用したり、または補助金返還が伴わない施設に活用していきたい。

<奥野副委員長>

設置した時に協力金を出さなければならないのか。

<上下水道部長>

統合にあたって負担金を求めることはない。水洗化率の向上については、地元をお願いしている。

<奥野副委員長>

住民の理解が十分できていないので、説明をしっかりとしてもらいたい。

<藤本委員>

上水の財源計画で、企業債の発行を大きく見込んでいる。企業債の返済計画とそれに伴う、上下水道の料金改定を考えているのか。

<総務経営課長>

受益のある方から料金をもらって運営していくことが原則である。施設については長期間にわたり使っていくため、世代間の公平性を保つため企業債を借りて、利用料金で返していく。企業債を借りることで、国の財政措置がされており、交付税を有効に活用できる企業債もあるので、それらを借りて事業をしていきたい。下水道も同じである。企業債をうまく活用して、料金の改定がないように運営していきたい。更新事業が高まっていくことが見込まれるが、この計画の中には、料金の値上げはうたっていない。今後人口が減ってくると、前期5年間ぐらいに、将来に向けて検討を重ねていきたい。

<赤坂委員>

「亀岡のおいしい水」をもう少し違う形で市外にアピールすることは考えていないのか。

<上下水道部長>

以前は備蓄用の水道水をペットボトルで販売していた。今後は、ペットボトルをマイボトルに変えるなど、様々な取り組みを行い宣伝していきたい。

<赤坂委員>

味を変えたり、美容に効くとか、肌にいいとか新しいことに取り組んでいくべきである。人口減少を食いとめるために、新しい発想をみんな考えていきたい。

<上下水道部長>

多様なことを考えていかないといけないと思う。水道事業だけで考えがちなので、議員と一緒に研究していきたい。

<竹田委員>

管路更新予定延長で、管路が壊れたりするリスクはないのか。

<総務経営課長>

更新については、すべて変えるのも無駄になってしまう。今のところ大きな事故は幸いにもない。

<竹田委員>

年度ごとに延長の計画をたてるのか、一定期間を区切って考えていくのか。

<総務経営課長>

一定耐用年数が40年から80年と長いので、50年ぐらいの計画を見越して、その中から50年の更新需要を立てて、そこから、延長で平準化をかけて10年間を抜き出す。漏水の発生度が高い管路を先に更新して、安全に給水していく。

<竹田委員>

資産有効活用の消化ガス売電利益の見通しは。

<上下水道部長>

今年1月に民間業者と基本協定を締結し、秋ごろに正式契約を結ぶ。来年度から建設にかかり、再来年度くらいからガス発電事業実施を見込む。単価等は正式契約が整っておらず、正式な数字は出ないが、ガスを売ることで、20年間で約2億円、1年間で1千万円程度の収入を見込んでいる。

11:05

[上下水道部退室]

(2) 行政視察に係る事前調査

① 視察行程について

<小川委員長>

事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察行程について説明]

① 視察目的及び視察項目の概要等について

② 調査事項の抽出

<小川委員長>

別紙「行政視察調査シート」に基づき、視察目的と視察項目の概要を確認し、本市の現状や課題を踏まえ、視察先に特に説明を求めたい点などについて、意見を求めたい。まず、飛騨市の楽天(株)と連携した飛騨市ファンクラブ事業について、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<赤坂委員>

まちの活性化のために、どんなことをしているのか。イベントはどんなものがあり、どんな取り組みを行っているのか知りたい。

<田中委員>

年度ごとの楽天からの寄附金額がいくらになるのか。また、効果はどのくらいになるのか知りたい。

<藤本委員>

楽天の寄附金が地域にどのように活用されているのか。地域経済の活性化など。直接のふるさと納税の年間寄附額はいくらになるのか。返礼品などもどのような形で行っているのか知りたい。

<菱田委員>

名刺の使い方によって、返礼品のような特典があるのか。また、事業予算の中身を詳しく知りたい。

<小川委員長>

次に、高山市の景観のまちづくりについて、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<藤本委員>

国からの補助や税制優遇措置についてどれくらいの金額を受けて、どのように電線の地中化などを進めたのか具体的に知りたい。

<小川委員長>

それでは、引き続き、高山市のインバウンド観光施策について、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<赤坂委員>

「飛騨高山観光客誘致推進協議会」について、どういうことに取り組んでいるのか、詳しく知りたい。どのように市を活性化させていったのか知りたい。インバウンド観光について、アイデアをすべて知りたい。

<菱田委員>

日本三大祭りの一つである高山祭について、文化とまちづくりが関わり、インバウンドが増えている。文化と観光の結びつき、ハード面の流れを知りたい。外国からの評価をうまく取り込み、それを逆に外国へ送り出すという、「海外との情報の流れ」と「観光と文化とハード面の流れ」を知りたい。

<藤本委員>

インバウンド観光について仕組みと戦略を知りたい。

<小川委員長>

それでは、引き続き、豊橋市のバイオマス利活用センターについて、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<赤坂委員>

発生した熱を何かに利用しているのか。また、今までに利用しようとしたアイデアがあるのか知りたい。

<菱田委員>

IoTを活用して、野菜をつくる工場がある。熱源管理に木材くずを使用したバイオマスを使っている。環境にやさしいため参考にしたい。行政の関わり方など関連資料があればほしい。

<藤本委員>

もう少し見られるところがあればいい。

2 その他

<小川委員長>

5月の月例について協議する。行政視察終了後、レポートの提出をお世話になり、それを踏まえて行政視察の振り返りを行いたい。また、産業観光部から行政報告の申し出も受けている。日程はどうするか。

[日程調整]

<小川委員長>

5月の月例は、5月29日（水）午後1時30分からとする。

散会 ～11:35